

異邦人の光

2022年10月23日

使徒の働き 13章44～52節

序：バルナバとパウロの第一次伝道旅行

シリアのアンティオキア～キプロス～パンフィリアのペルガ（ヨハネ・マルコ離脱）
～ピシディアのアンティオキア

ユダヤ人会堂でパウロ説教（イスラエルの歴史回顧～救い主の先祖ダビデ王～イエスの来臨・生涯・贖いの御業～からだをもって復活（不朽・不死）⇒罪の赦し
永遠のいのち

この福音は主の復活の証人によって宣べ伝えられる

証人の一人、パウロの宣教（at ユダヤ教の会堂）

集会は実り多く、充実（集会後も残って話合う、恵みに留まるよう奨励）

I. 次の安息日

前の安息日のことは町中の評判になった

町中のほとんどの人々が、神のことはを聴きに集って来た

(1)ユダヤ人たちのねたみ

群衆の多さ

パウロの宣教・神のことはへの傾聴 ⇔ 反対、悪口雑言、罵り

(2)パウロとバルナバの宣言

宣教はユダヤ人優先、しかし、拒絶（永遠のいのちに値しない者）

伝道の基本方針の大転換（異邦人に向かうことを明確に宣言

しかし、以後も行く先々でユダヤ人の会堂で語る（ユダヤ人組ではない）

(3)異邦人の救いの喜び・主のみことばへの賛美

①神の予定＝永遠のいのちに定められていた人々がみな信仰に入った

エペソ 1・4～6 神の選び

黙示 13・8 小羊のいのちの書（信者）

21・27 ”

ルカ 10・20 名が天にしるされている

cf. 黙示 20・12 いのちの書（不信者）

選び + 恵み + 信仰 ⇒ 救い
(父) (子) (聖霊)

②イエス・キリストの救い

伝道者・宣教者 = 異邦人の光

イザヤ 49・6

ルカ 2・29～32

地の果てまで（国々、民族を越えて）

II. 結果

(1)主のことばが地方一帯に広がる

(2)ユダヤ人たちが二人を追放

ユダヤ人会堂に集っていた異邦人（貴婦人・有力者）たちを扇動、迫害させる
二人をピシディアのアンティオキアから追い出す

(3)バルナバとパウロは足のちりを払い落とし ⇒ イコニオンに移動

イエスが派遣する弟子たちに命じた ルカ 9・5 10・10～11

快く迎えなかった家や町村を去るときの仕草（断絶）

伝道の責任は果たした 神のさばきを受けても、拒んだ側の責任

(4)救いにあずかった人たち（弟子たち）の存在

試練（ユダヤ人の敵意、伝道者の追放）に早々に遭遇

信仰に対する迫害は、むしろ彼らに喜びと聖霊の満たしをもたらした

III. 結び

(1)集会後のフォローアップ（語り合う、奨励）

(2)福音が前進拡大するとき、人々は二分される（反対・拒絶・妨害・攻撃）

（承認・受領・共存・一致）

(3)主イエスを信じない人がいるのは神の責任ではない

その人が知らされても拒み、自分を永遠のいのちを受けない者と定めたから
恐れ、怠慢、自己中心、不信仰のため、信仰者が宣べ伝えなかったから

(4)救いは三位一体の主なる神の御業

(5)喜びは悲しみから、自由は圧迫から、勝利は挫折・敗北の経験から生まれる

(6)労苦は無駄にはならない、必ず実が残り、その実が種となって、次の世代を生み出す

(7)試練や問題は必ずある、絶えずある（ここでは、ユダヤ人のねたみ、迫害）

その現実を見ないようにしたり、避けることでは解決にならない

意思のあるところに道は開ける

－を＋に、悲嘆を歓喜に、失望を希望に、死からいのちに替えてくださるのは神

(8)いかなる状況下でも、神のご計画は成就する

神に聴き従う聖徒たちは、神の共働者